

単行本等未収録の62作を網羅、生誕80年を機に刊行

井上ひさし 短編中編小説集成

全12巻



岩波書店

刊行にあたって

岩波書店

戯曲、小説、そして時代への発言と、精力的な作家活動をしてきた井上ひさしにとって、書くこととは一体何であったのでしょうか。

「読書によって体得した智慧に導かれてだけれど、いま生きつつある者として本を書けば、現在はずでに未来をさえ孕みはじめる『本とわたし』(朝日新聞 一九八三年十月二十七日)。」
こうした「思い残しリレー」の一走者たらんとし、自在に言葉を駆使してきた井上ひさしの小説世界を、

●井上ひさし、多彩な小説世界

(全巻解説執筆者／大妻女子大学教授 今村忠純)

井上ひさしは、小説と戯曲の両道を行き、質・量共にすぐれ、評論家、文学史家、随筆家としてもならぶもののない業績を遺しました。護憲を説いては「九条の会」の呼びかけ人の一人として反戦平和運動の先頭に立ち、言論界でも重きをなしました。

しかし、そればかりではなかった。短編・中編小説、またコント、シヨート・シヨートの名手でもありました。

井上ひさしは、えらばれた読者から絶対多数の読者へと語りかけることのできる、ほんとうの「詩人」でした。別にいえば、ある歴史や人物、またある物語に対して、いつも高い見方と俗な見方、さらに公と私、思想と感情、その両面からの語り方に心を砕いたのです。

——むずかしいことをやさしく、やさしいことをふかく、ふかいことをおもしろく……。

生誕八十年にあたり、その多彩な小説世界を集成し、つぶさに確かめる好機にしたいと思います。



生誕八十年を機に全十二巻でお届けします。

本集成は、一九五八年に聖パウロ女子修道会発行の雑誌『あけぼの』に連載開始した最初の小説「燐祭」から二〇〇八年に執筆を終えた「東慶寺花だより」まで、短編・中編小説の全作品を時系列に収め、雑誌連載中に好評を得ながらも、その後単行本等未収録のままになっていた作品、未完作品をもすべて補う初めての全集です。没後四年、今なお多くの読者を掴んで止まない井上ひさしの魅力を、さらに膨らませることができれば幸いです。

読んでいる間はゲラゲラ笑って

一日ぐらいホツとするような

そういう小説を絶対書きたい

(「ふかいことをおもしろく」より)

全巻の構成

★印は単行本等未収録作品

第1巻

ブンとフン

★燔祭

★講談 弁天小僧お嬢吉三
★フン先生の初恋

燔祭

二十三歳で執筆した未完の処女作。浅草六区のストリップ劇場・フランス座で組合をつくるうとして追放された経験を跳ね台にして、芸人、踊り子たちへの篤い思いを綴った井上小説世界の原点。

第2巻

モッキンボット師の後始末

四十一番の少年

イサムよりよろしく

★十二の微苦笑譚 ほか

十二の微苦笑譚

花屋の売り子の表裏をシニカルに描いた「ほとんど完璧な娘」、息子の帰りを駅で待ち続ける老母と恋人を写す「揺籃」——新進気鋭の劇作家として脚光を浴びた七十年代初頭に書かれた井上小説の原石。辛みのきいたユーモアと愛の涙がキラリと光る十二の掌編。

第3巻

手鎖心中

★たそがれやくざブルース

★さよならミスライセンス

★赤い自転車

★昭和元禄江戸の春

★われら中年万引団

★新作艶笑落語 御松茸

原稿用紙を五万枚、誂あつらえました。(中略)

「遅筆堂用箋」と入れたのは

居直りであります。

いくら遅くなってもいい、

質のよいものを書くぞ、

という覚悟の五文字であります。

どうか、ご期待ください。

井上ひさし

——直木賞受賞後に(「鴻の台だより 四」より)

第7巻

四捨五入殺人事件

★十二人の手紙

★捨て子

★秘本 大岡政談

★私小説

★掌編連作

★花見万太郎伝

★代役

代役

台本の遅れを理由に主役級の俳優が二人、舞台降板を申し入れてきた。劇作家兼演出家の「はく」は、激怒しつつも、稽古場で黙々と代役を務めるMに演劇の真髄を見る。台本、演出、俳優、裏方たちへ、小説の力たちを借りた井上演劇論が炸裂。

第8巻

月なきみそらの天坊一座

★黄色い鼠

★喜劇役者たち

★第9巻

★他人の血

★犯罪調書

★戯作者銘々伝

★京伝店の烟草入れ

★他人の毛

★食卓の光景

★台所の声

第10巻

★花石物語

★不忠臣蔵

★わが友フロイス

★五分と五分

★日本一

★唐黒の壺

★現代滑稽合戦記

第11巻

★ナイン

★グロウプ号の冒険

★嘘

★空席

★親銭子銭

★質草

★紙の家

紙の家

小説家・劇作家の長井修吉、妻、三人の娘、妻の両親の七人家族、それに居候が三人。「家族」はいても「家庭」はない長井家を舞台に、作家とその妻の離婚前後の顛末を描いた遺作。六百枚を超える原稿をすべて収載。

第12巻

★言語小説集

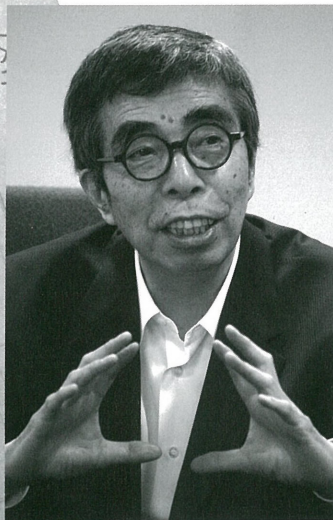
★東慶寺花だより

★インッ株式会社

★お詫びの手紙

井上ひさし

(いのうえ ひさし)一九三四年山形県生まれ。小説家・劇作家・放送作家。上智大学外国語学部フランス語学科卒業。文化功労者・日本藝術院会員。六四年より「ひよこどり」よつたん島(共作NHK)の台本を手掛け、人気番組となる。六九年「日本人のへそ」で劇作家デビュー。その後、小説・戯曲・エッセイなど、幅広い作品を数多く発表した。八四年、こまつ座を旗揚げし、座付き作者となる。直木賞・日本SF大賞・読売文学賞・谷崎潤一郎賞・菊池寛賞・朝日賞など受賞多数。二〇一〇年逝去。



「四十一番の少年」原稿(仙台文学館蔵)

